

# 経済指標レポート 第199号

(社)関西経済連合会 経済グループ(担当:高島)

Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6443 - 5347

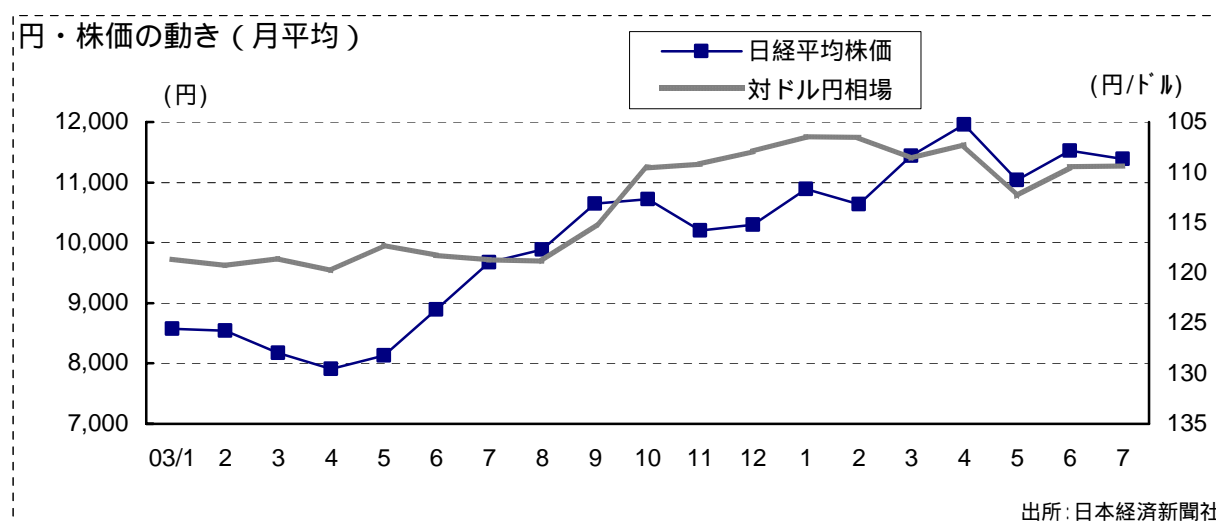
6月の完全失業率は、前月と同水準の4.6%となった。完全失業者数は309万人と前年同月比で52万人減となり、失業率は高水準ながらも低下傾向で推移している。月例経済報告においても、雇用情勢は厳しさが残るものの改善が進んでいると判断している。関西も同月で5.4%と全国に比べて0.8ポイント高いものの、前年同月比で1.2ポイント低下している。

ただ、就業者と失業者を合わせた労働力人口は12カ月連続で減少している。人々は、雇用機会が減少し就職が困難な際には、非労働人口として労働市場から退出してしまい、労働力人口にカウントされない傾向がある。15～24歳層の完全失業率をみても、9.2%と高水準であり、雇用環境の改善は進んでいるが、労働市場に現れない就業意欲を欠いた若者が増えている可能性もあるとみられる。

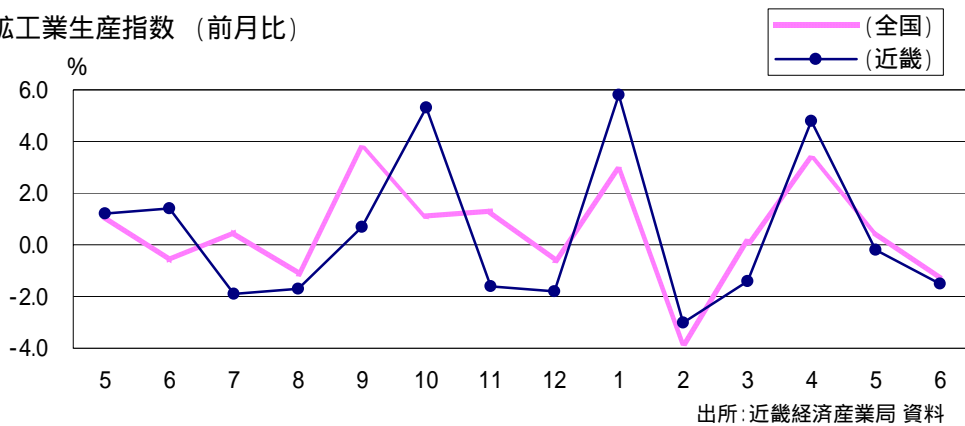
また、当月の失業率を性別でみると男性が前月比0.2ポイント上昇の4.9%、女性は同0.2ポイント低下の4.2%となり男女格差が広がった。これは、雇用形態の非正規化が進行するなか、正社員志向の強い男性の就業が相対的に厳しいことが反映されていると思われる。需要不足による失業が発生する一方で、営業職や専門職は慢性的な人手不足にあるといわれており、雇用のミスマッチも依然として残存している。

このように、改善はみられるものの雇用環境の整備には多くの課題を抱えている。最近では、就学も就職もしない「ニート」と呼ばれる25歳未満の若者が40万人いると推計されている。こうした状態は、長期の人的資本形成そのものの阻害となるため、労働市場にマッチング機能が具備されるようマクロ経済、産業構造、社会保障、教育を総合した政策の展開が急務である。

## < 各指標の動き >

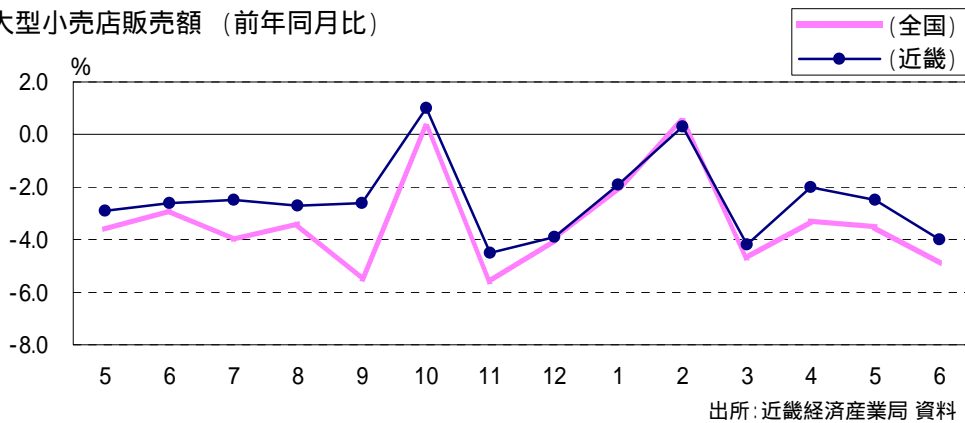


鉱工業生産指数（前月比）



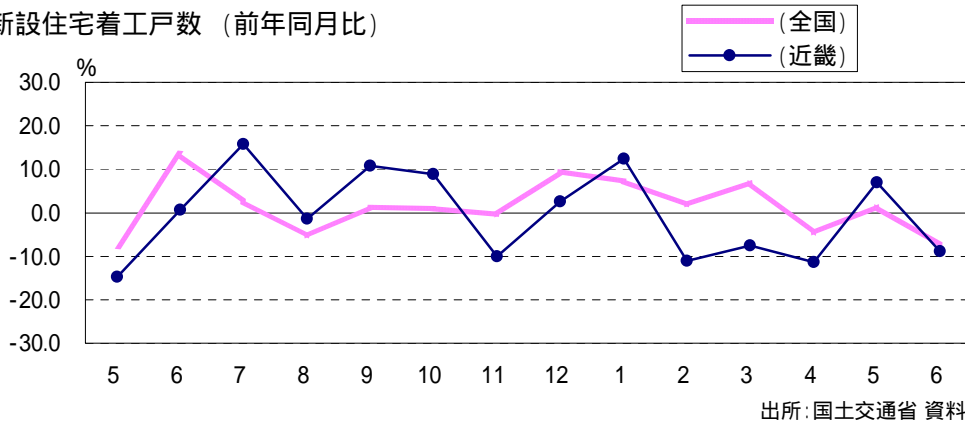
近畿は前月比 1.5% 減。低下の要因となった業種は、電気機械工業、金属製品工業など。高水準の生産が続いている自動車や電気機械などの分野で伸びが一服したとみられる。

大型小売店販売額（前年同月比）



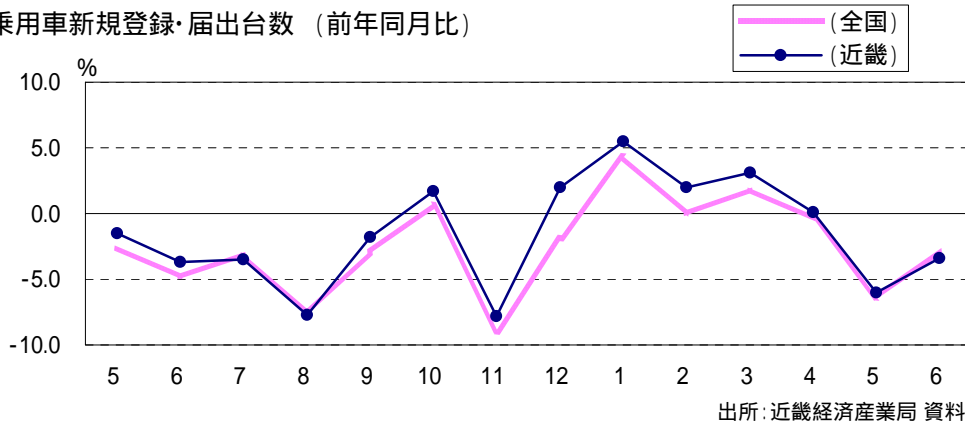
近畿は前年比 4.0% 減。百貨店は、中元ギフトの早期受注やクリアランスセール開始時期が7月にずれ込んだことなどからほとんどの商品が不調でマイナス、スーパーも飲食料品などが振るわずマイナスとなった。

新設住宅着工戸数（前年同月比）

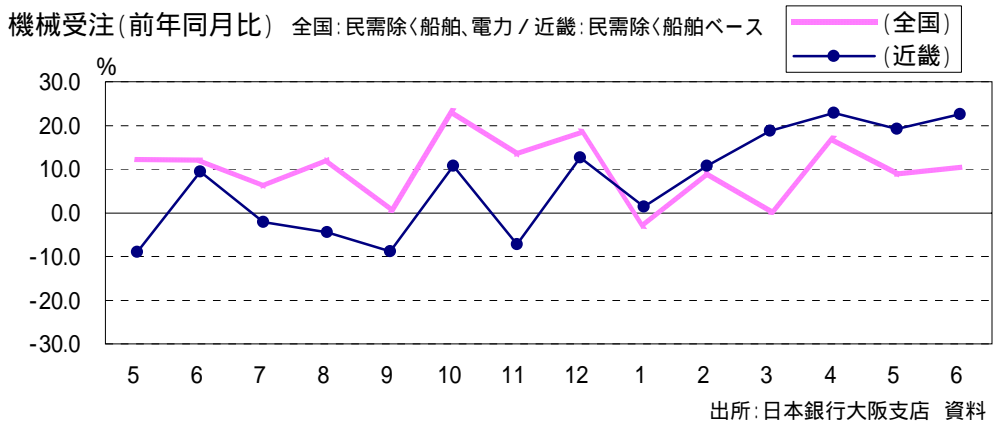


近畿は前年比 8.9% 減。持家、貸家、分譲住宅のすべてで減少した。一方、分譲マンションは同 23.6% 増となっており、都心部を中心に市場調整が終了したとみられる。

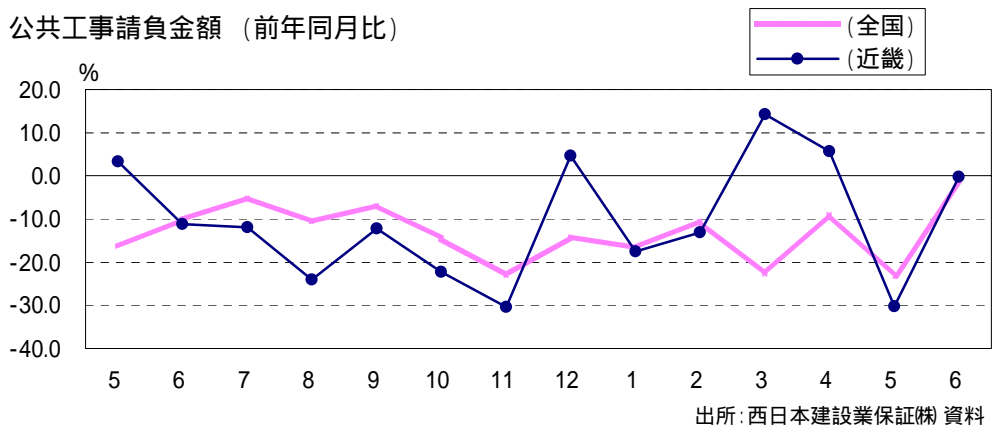
乗用車新規登録・届出台数（前年同月比）



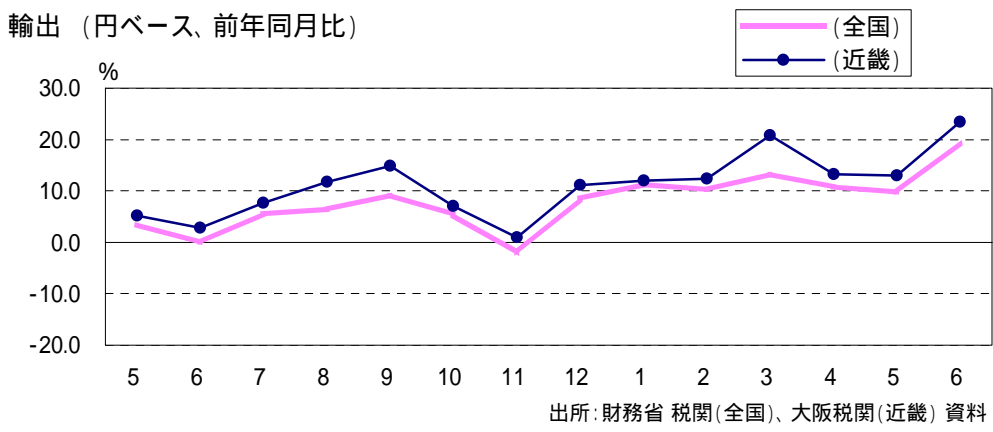
近畿は前年比 3.4% 減。車種別では普通車（同 5.9% 増）は堅調であったが、小型車（同 11.2% 減）が 13 か月連続で前年を下回った。



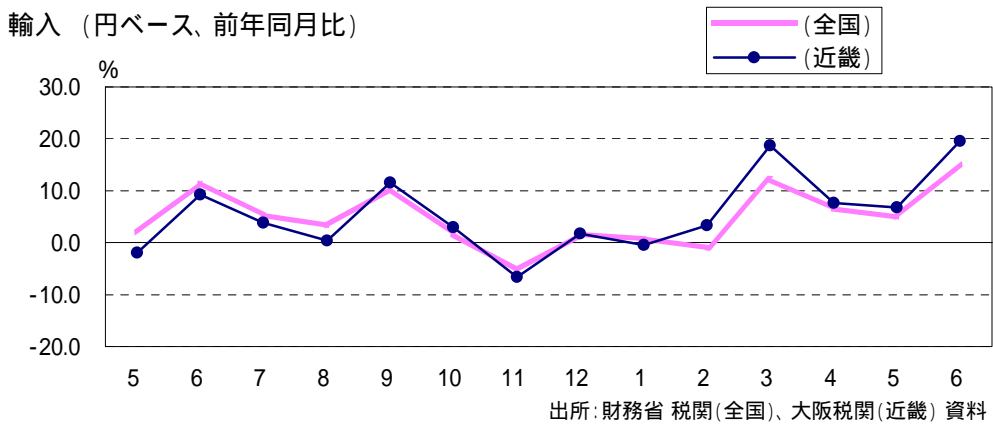
近畿は前年比22.5%増、前月に引き続き堅調な動きである。ただ、非製造業においてまだ製造業ほどの強さは見受けられない。



近畿は前年比0.2%減。日本道路公団の大型工事により「公団事業団等」で2.5倍増となる一方、大型工事の反動減による「国」で大幅減、京都・大阪を除く「府県」で2桁減となったことによる。

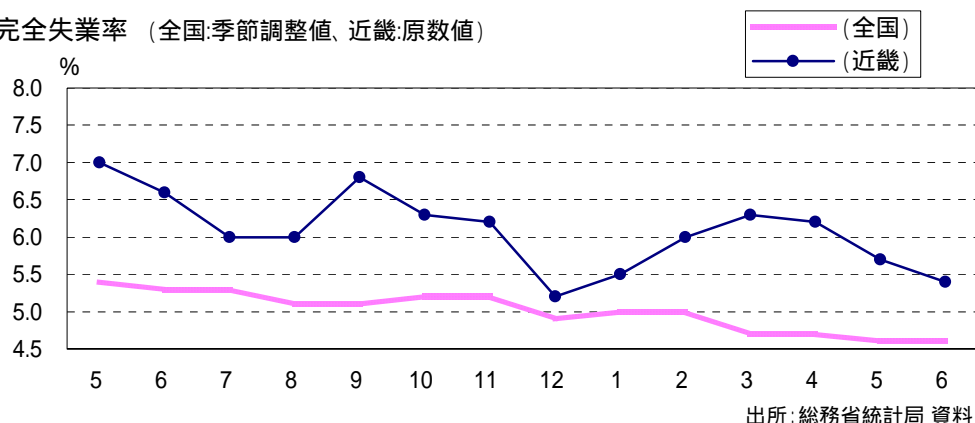


近畿は前年比23.4%増、27か月連続のプラス。輸出額は2か月ぶりに1兆円となり、とりわけ対中輸出は過去最高額を記録した。



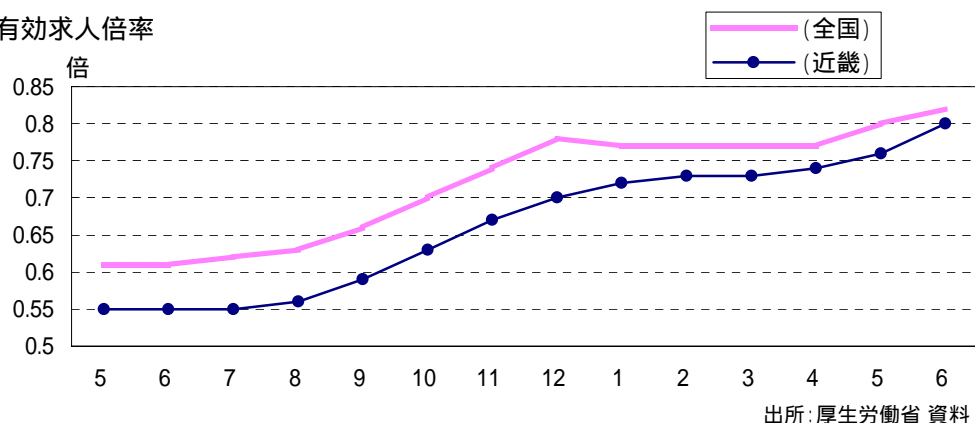
近畿は前年比19.6%増、5か月連続のプラス。輸出入ともに好調で貿易は拡大傾向にある。品目別には、原粗油、音響・映像機器、医薬品などが寄与した。

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



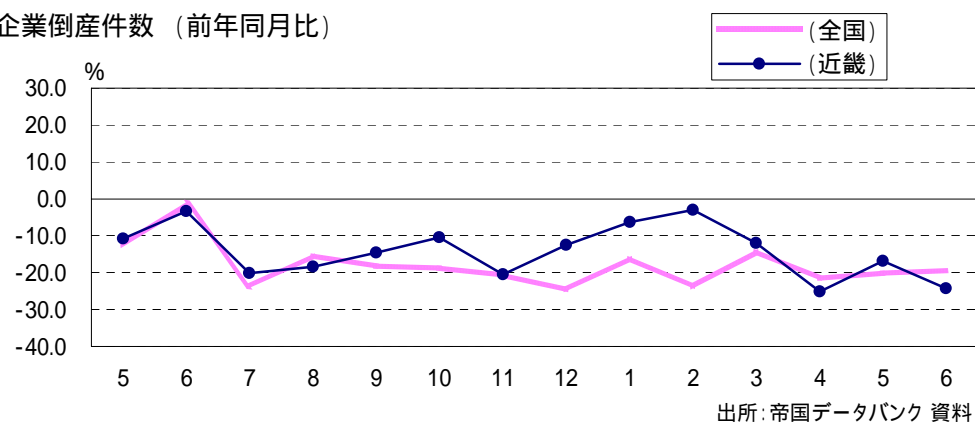
近畿は5.4%、前年同月比 1.2 ポイントの低下。完全失業者は同 15 万人減で、雇用環境の改善が進んでいる。ただ、労働力人口も同 33 万人減となっている。

有効求人倍率



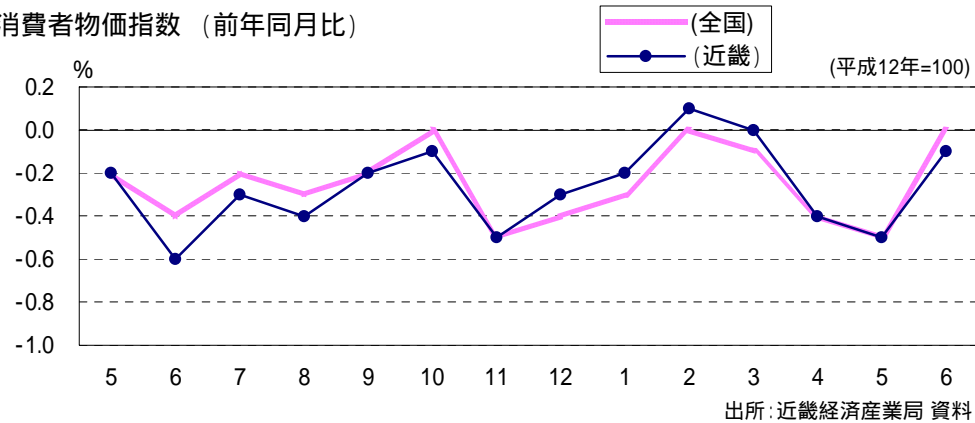
近畿は前月比 0.80 倍、全国との乖離の幅も縮小している。製造業の業況回復が雇用環境の改善に寄与している。

企業倒産件数 (前年同月比)



近畿は 244 件、14 か月連続の減少。負債も大型倒産が発生せず 8 年ぶりの水準である。主要業種別では構成比の最も高い建設が 5 か月連続で減少、8 か月連続で 100 件を下回っている。

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は 97.6、前年比 0.1% 減。企業物価の上昇等から下落圧力は弱まりつつあるが、依然緩やかなデフレ基調にある。